

皆さまとおきぎんをつなぐ情報誌

沖縄銀行 ディスクロージャー誌

おきぎん 2021 情報編 レポート

NEXT INNOVATION ～次世代へつなぐ新しい価値の創造～



LittleTwinStars
© 2021 SANRIO CO., LTD. APPROVAL NO. L827501

PEOPLE'S BANK

◎ 沖縄銀行

PEOPLE'S BANK

県民に一番愛される銀行

CONTENTS

2 おきぎんのビジョン

4 特集 地方創生に貢献するために

12 キャッシュレス決済をはじめよう！

16 デジタルを活用して 金融サービスをもっと便利に 「おきぎんBig Advance」

18 おきぎんの業務革新の取り組み

20 おきぎんグループ×SDGs 持続可能な社会を実現するために

27 沖縄銀行創立65周年によせて

28 【2021年3月期】 業績ハイライト(単体)

皆さまと沖縄銀行をつなぐ情報誌「おきぎんレポート」(ディスクロージャー誌)では、当行の取組みとともに、沖縄の「今」をお伝えします。ぜひ、ご覧ください。

2021年3月期の詳細な財務データなどは、「ディスクロージャー誌2021(資料編)」をご覧ください。

頭取メッセージ

お客さまとともに 持続可能な社会を創造する

皆さま方には平素より私ども沖縄銀行をご利用、お引き立ていただき誠にありがとうございます。

当行は1956年の創立以来、「地域密着・地域貢献」という経営理念のもと、地域の中核金融機関として地域経済の発展とともに成長し、今日の基盤を築き上げてまいりました。これもひとえに地域の皆さまや株主の皆さまからの永年にわたる温かいご支援の賜と深く感謝いたしております。

2020年度の経済を振り返ると、新型コロナウイルス感染症の影響により日本国内、沖縄県内ともに非常に厳しい1年でした。出入国の制限や緊急事態宣言の発出などによって日本国内の経済活動は縮小し、一時は感染の拡大が収まり経済が回復していくかに思われましたが、再び感染が拡大し、今なお日本経済は厳しい状況が続いております。

インバウンド需要を追い風に観光業界を中心に活況を呈していた県経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響により一転して不況に陥り、観光関連産業、飲食サービス業などを中心に大きな打撃を受け、多くの事業者さまが資金繰りに窮する事態となりました。Go Toキャンペーンなどにより一時は回復の兆しが見えつつあったものの、国内と同様に長引く新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況が続いております。

当行は「地域密着、地域貢献」の経営理念のもと、新型コロナウイルス感染症の影響を受けた

個人のお客さまや事業者さまの支援を最優先事項として取り組み、全役職員一丸となって地域のお客さまを支えていきたいと考えております。

当行は、本年4月より開始の第19次中期経営計画「NEXT INNOVATION ～次世代へつなぐ新しい価値の創造～」を策定いたしました。中期経営計画のもと、グループ連携力を深化させ、地域社会やお客さまの課題解決に取り組み、デジタルとアナログの融合によって地域のお客さまとともに共通の価値を創造してまいりたいと考えております。

また、当行は2021年10月に持株会社体制へ移行する予定です。「総合金融サービスグループ」から「金融をコアとする総合サービスグループ」へ進化することで事業領域を拡大し、地域の課題を金融サービス、非金融サービスの両面で解決し、地

域社会の価値向上と持株会社グループの持続的成長を目指してまいります。

最後になりますが、国連の提唱するSDGsのゴールは2030年です。当行はこれまでクリーンビーチ活動やこども食堂への寄付など、SDGs達成の一助になるような取組みを行ってまいりました。『誰ひとり取り残さない』持続可能な社会を実現するため、さらに力を入れてグループ役職員一丸となって取り組んでまいります。

皆さまにおかれましては、今後とも引き続き格別のご支援・ご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

取締役頭取 山城 正保

中期経営計画における経営指標の成果と目標

第18次中期経営計画				第19次中期経営計画					
		経営数値目標	2021年3月期実績	2021年3月期目標			経営数値目標	2024年3月期目標	
収益性	収益性	連結当期純利益ROE	3.46%	4.0%程度	自社成長性指標	収益性	連結当期純利益ROE	4.0%程度	
		コア業務純益	87億円	75億円			コア業務純益	75億円	
		コアOHR	71.40%	70%程度			連結OHR	70%台前半	
成長性	成長性	法人メイン先数	9,011先	8,000先		健全性	健全性	開示債権比率	2%程度
		個人メイン先数	338,274先	350,000先				連結自己資本比率	10%程度
健全性	健全性	開示債権比率	1.24%	1%程度	持続性指標・地域成長指標	持続性	地域のお客さまの課題解決支援(件数)	5,000件	
		自己資本比率	10.30%	10%程度			地域のお客さまの資産形成支援(累計金額・件数)	70億円 18,000件	
							SDGs達成へ向けた取組み(累計件数)		500件

第19次中期経営計画
2021年4月ー2024年3月

NEXT INNOVATION

～次世代へつなぐ新しい価値の創造～

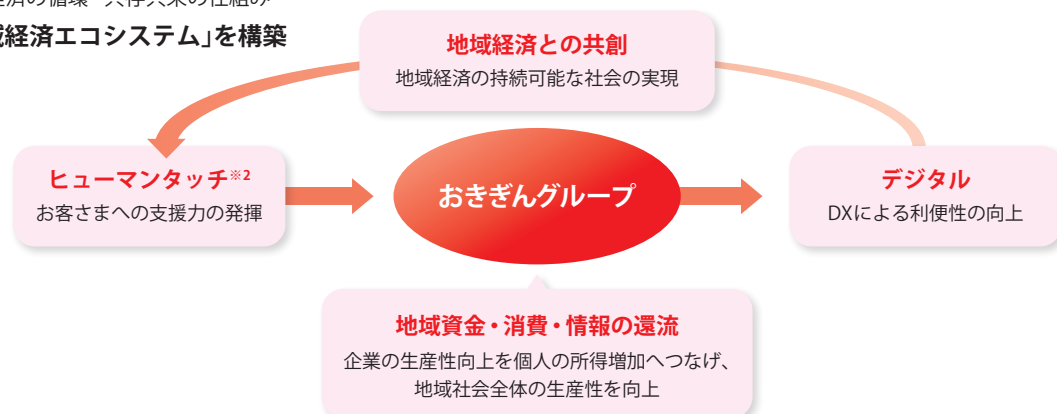
基本方針

第18次中期経営計画における、次世代へつなぐ持続的な未来を創造する取組みを踏襲し、非金融との融合など、おきぎんグループの新たな発想により、事業領域の拡大を図ることで、新たな価値を提供し、お客さまとともに持続可能な社会を創造する、金融をコアとした総合サービスグループを目指します。



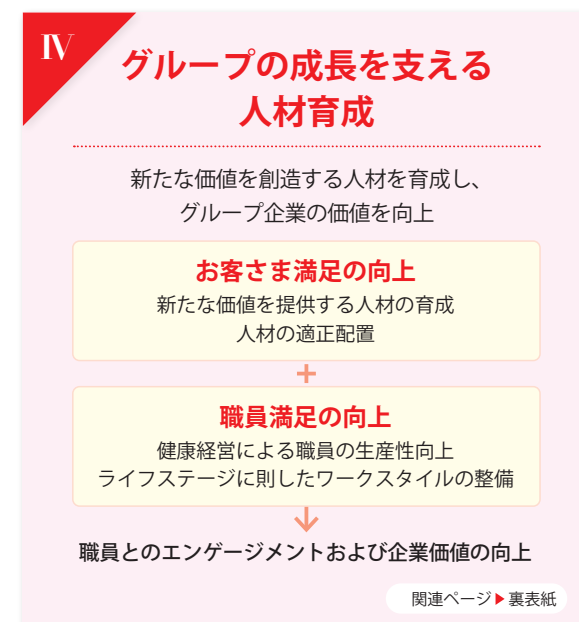
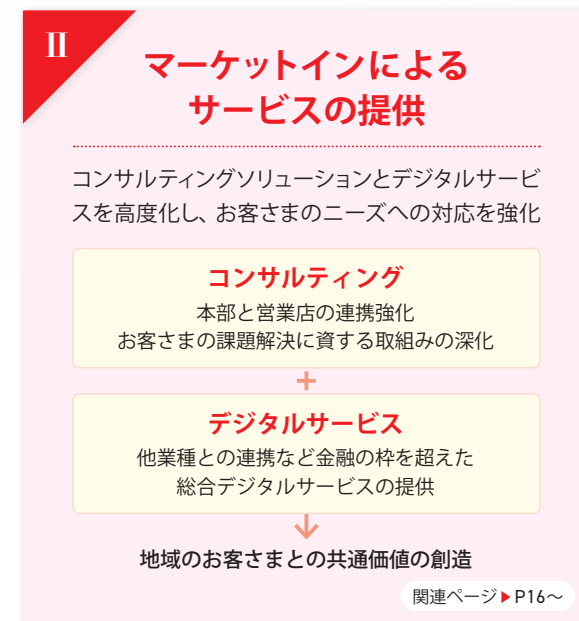
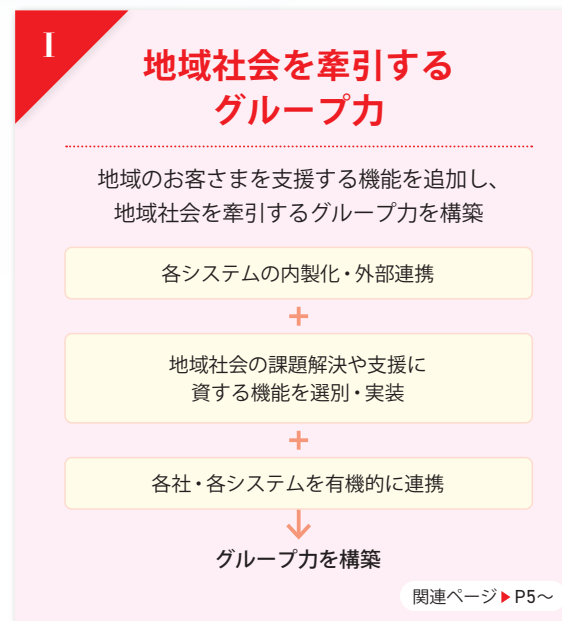
将来の目指す姿

地域経済の循環・共存共栄の仕組み
「地域経済エコシステム」を構築



※1 DX: Digital Transformation (デジタルトランスフォーメーション)。データやデジタル技術を活用し、組織やビジネスモデルを変革し続け、価値提供の方法を抜本的に変えること。
※2 ヒューマンタッチ: 機械的な窓口業務を除いた、新たな顧客体験やお客さまの自己実現をサポートする、付加価値の高い対面サービスのこと。

基本戦略



中期経営計画の詳細は沖縄銀行Webサイトにてご覧いただけます。

<https://www.okinawa-bank.co.jp/corporate/>



特集

地方創生に 貢献するために

新型コロナウイルス感染症の拡大により、経済活動は世界的に深刻な打撃を受けました。人の移動制限に伴うデジタル化の加速、ニューノーマルと呼ばれる「新しい生活様式」や「新しい働き方」の定着など、社会は大きく変化し、新たなニーズも生まれています。“新しい”を創り、地方創生への貢献を目指す、沖縄銀行の取組みをご紹介します。

- ▶ P 5 「おきなわフィナンシャルグループ」設立
- ▶ P10 地域総合商社「みらいおきなわ」設立
- ▶ P10 「沖縄経済活性化パートナーシップ」提携
- ▶ P11 新型コロナウイルス感染症に関する取組み

「おきなわフィナンシャルグループ」設立

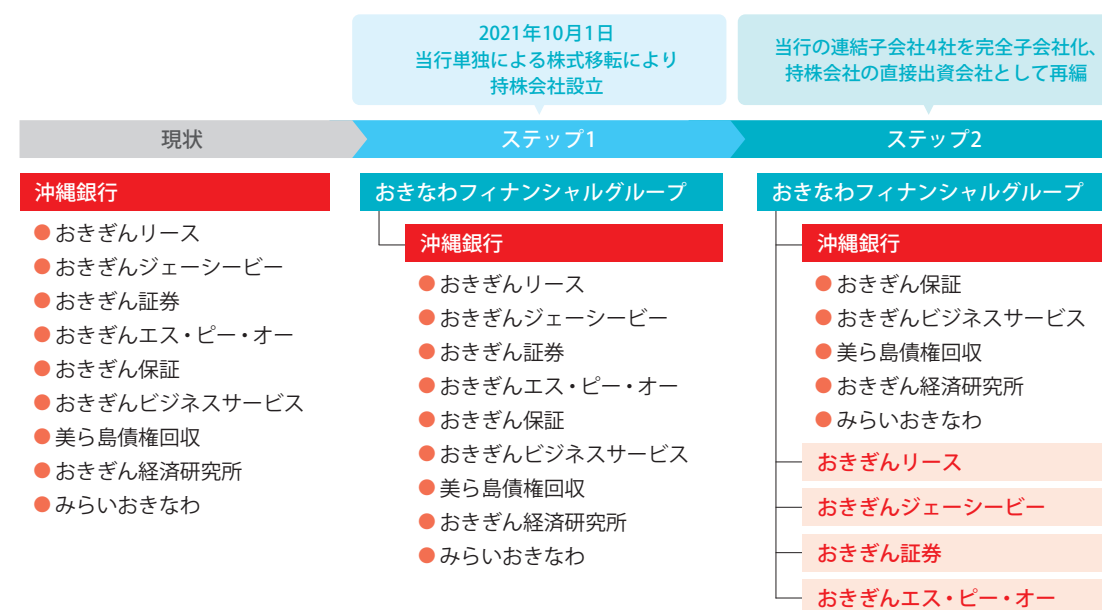
当行は、社会構造の目まぐるしい変化に柔軟に適應するため、2021年10月、「おきなわフィナンシャルグループ」を設立し、持株会社体制へと移行します。地域に根ざした「金融をコアとする総合サービスグループ」として、人、企業、地域をつなぎ、おきなわの“新しい”をお客さまとともに創り、地域社会の価値向上と持続可能な未来の創造に貢献します。

OFG

おきなわフィナンシャルグループ

グループシンボルは、Okinawa Financial Groupの頭文字「OFG」を、沖縄の海や波、吹き抜ける風から着想したウェーブエレメントがつなぐデザインです。グループの連帯感、人や企業、地域社会の絆、世界とのつながりの中で、おきなわの“新しい”をお客さまとともに創っていく、という私たちの決意を表しています。また、新生グループを象徴する爽やかなブルー、軽やかな書体デザインは、親しみやすさと進歩的な印象を併せ持つグループの在り方を表しています。

▶ 持株会社体制への移行の流れ



■ 持株会社における経営理念

グループ経営理念（ミッション）

地域密着・地域貢献

おきなわフィナンシャルグループは地域に密着することで、地域社会の価値向上（持続可能な社会的価値の創造、暮らしの充実と県民所得の向上）を図り、共に持続的に成長し、地域貢献を果たしていくことを使命（ミッション）とします。

ビジョン（持株会社グループの目指すべき姿）

金融と非金融の事業領域でお客さまをサポートすることで、カスタマー・エクスペリエンス※を実現し、地域とともに成長する金融をコアとする総合サービスグループ

※カスタマー・エクスペリエンス：商品やサービスの金銭的・物質的な価値に加えて、その商品の感動や満足感、効果など心理的なもの、感覚的なものすべての価値。

行動規範（バリュー：価値判断）：Three Values

感動 Impress

地域社会に新たな価値を提供し、あなたの感動をいちばんに考動します。

創造 Create

お客さま起点で最良のサービスを提供し、情熱と新たな発想で未来を創造します。

挑戦 Challenge

お客さまへの新たな事業領域の提供に向け、創意と進取の精神で挑戦します。

ブランドスローガン

Create Value & Innovation

～おきなわの“新しい”をともに創る。～

おきなわへの想いをひとつに。

「お客さまに寄り添いたい」「期待に応えたい」「地域社会の価値向上に全力を尽くしたい」。事業環境が変わり、変化に適応していくなかにおいても、わたしたちは沖縄銀行創業以来、変わらずに受け継いできた価値観をもって、新たな発想とともに挑戦します。「Create Value & Innovation～おきなわの“新しい”をともに創る。～」は、新たな発想で未来をデザインし、おきなわの“新しい”をお客さまと共創することで、より視野を拡げながら地域の皆さま、企業の未来を切り拓く存在となることを目指すわたしたちの想いです。

■ 目指すべき姿

オープンイノベーション※により金融事業領域と非金融事業領域の融合を図り、マーケットインに基づくビジネスモデルへさらに進化させます。



※オープンイノベーション：自社の保有する内部リソースと外部企業が持つ革新的なアイデアや技術、専門的知見といった外部リソースを組み合わせることにより、新たな競争力や付加価値を生み出そうとすること。

■ 目指すべき姿の実現に向けた経営改革

社会構造の変化に柔軟に適応するため、10年後を見据えた体制を構築し、地域社会の課題を、非金融サービスを含めた総合サービスで解決します。

事業領域の拡大

地域社会の多様化・複雑化する課題を解決するために、事業領域を拡大することで、グループシナジーの更なる強化を図ります。

収益源の多様化

組織構造を変化させることで、金融機関を取り巻く環境の変化に適応し、将来の収益確保を図ります。

ガバナンスの強化

持株会社体制へ移行し、グループガバナンスを強化することで、地域社会と持株会社グループの持続的な成長・発展を目指します。

経営資源の配分

グループにおける重複業務の洗い出しを行い、経営資源の配分を行うことで、戦略的な投資を目指します。

■ 持株会社のビジネスモデル

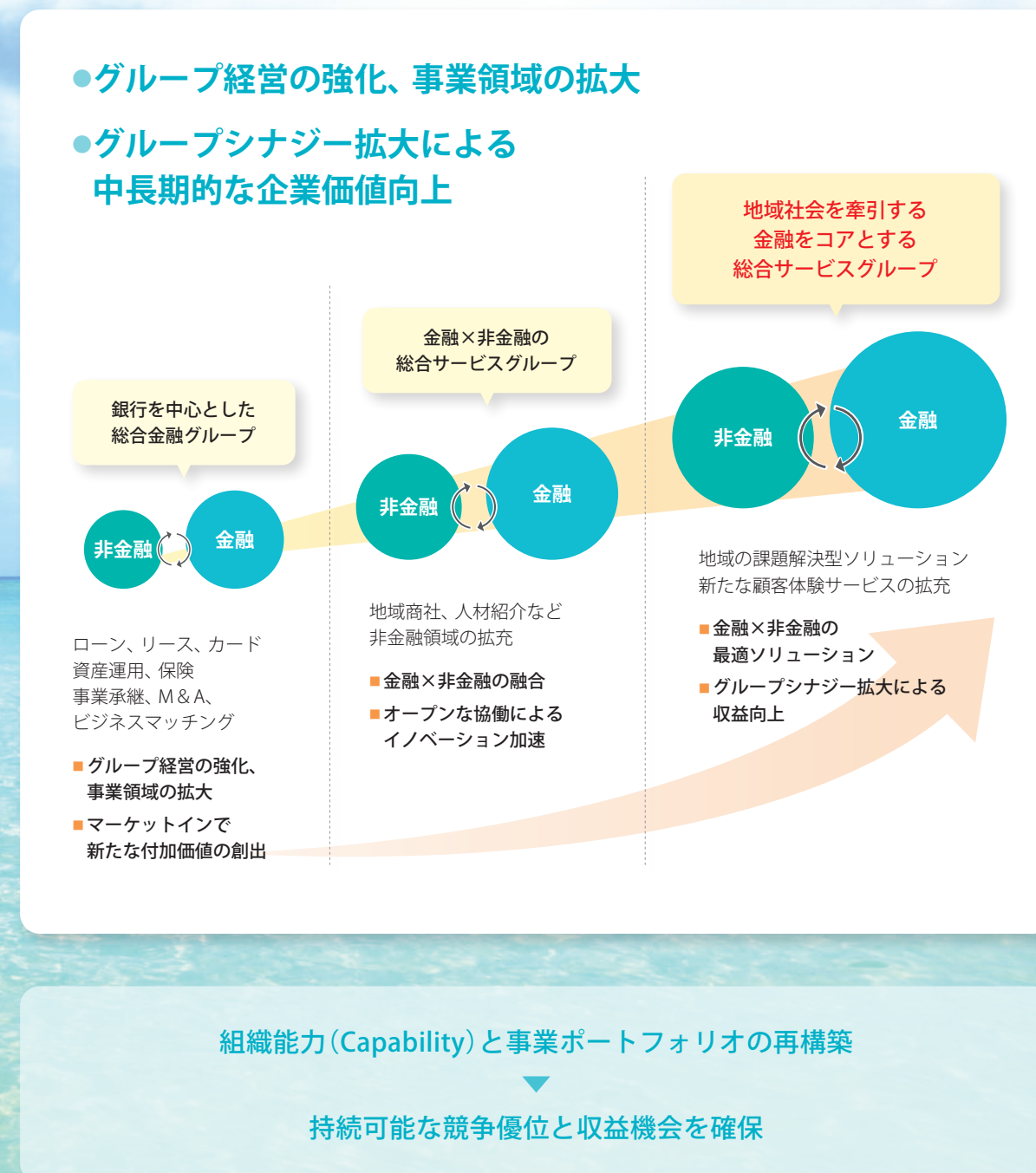
総合サービスでカスタマー・エクスペリエンスを追求し、
地域社会の持続的な成長を牽引します。



※カスタマージャーニー：サービスを利用する人物像を設定し、その行動、思考、感情を分析し、認知から検討、利用へ至るシナリオを時系列でとらえる考え方（一連の体験を「旅」に例えている）。

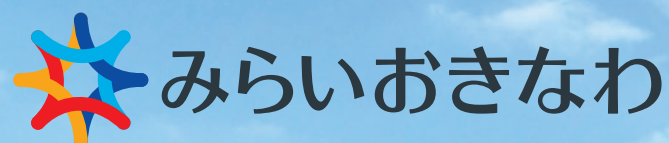
■ 持株会社の新たな価値創造

環境変化に適応した自己変革により、
地域を牽引する金融をコアとする総合サービスグループへ進化します。



地域総合商社「みらいおきなわ」設立

沖縄銀行は、地方創生や地域経済の活性化に貢献することを目的として、2021年6月、地域総合商社を設立しました。「金融をコアとする総合サービスグループ」として銀行と地域商社の相乗効果を発揮することで、県内事業者さまの販路拡大を中心とした本業支援を行い、地域の持続的な発展を支援します。



事業内容

販路拡大支援

銀行のネットワークやプラットフォームを活用したビジネスマッチングや営業代行を通じて、沖縄県内の事業者さまの「モノを売る」支援を行います。

コンサルティング

地域事業者さまのニーズに応じ、「売れるモノを作る」「モノを売る体制を作る」支援を行います。また、地域づくりに関する提案を行います。

「沖縄経済活性化パートナーシップ」提携

当行は、地域経済の持続的な発展や新型コロナウイルス感染症の拡大により苦境に陥った地域のお客さまを支えることを目的として、株式会社琉球銀行と包括業務提携（沖縄経済活性化パートナーシップ）を締結しました。両行が協力してノウハウの共有や協業をすることで、生産性の向上・コスト削減を図り、創出した経営資源をより付加価値の高いサービスとしてお客さまに還元し、沖縄県経済の持続的な成長に寄与します。

① 沖縄銀行



琉球銀行

パートナーシップで行う施策

施策1 沖縄県経済の発展に資する協業

地方創生部会を立ち上げ、公的支援機関と連携したお客さま支援の充実、本業支援のための商談会やセミナーの開催などの協業を検討しています。両行で取り組むことでより充実したお客さまサポートを実現します。

施策2 バックオフィス業務の共同化によるコスト削減

バックオフィス部会を立ち上げ、相続手続きの共通化に取り組んでいるほか、ATMの共同化や現金配送・メール便などの共同化を検討しています。お客さまへのより良いサービス提供に向けた取組みを推進します。

新型コロナウイルス感染症に関する取組み

シトラスリボンプロジェクトへの賛同

おきぎんグループは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に寄与し、誰もが安心して暮らせる社会の実現を目指して、「シトラスリボンプロジェクト」に賛同しました。職員が積極的に参加するとともに、お客さまや地域の皆さまへシトラスリボン運動を発信することで、感染者・濃厚接触者への差別的な扱いや社会的孤立を防止し、誰ひとり取り残さない、住み続けられる社会の実現を目指します。



Citrus Ribbon
PROJECT

地域・家庭・職場（または学校）を象徴する3つの輪をかたどったシンボルマーク

シトラスリボンプロジェクトとは

誰もが新型コロナウイルスに感染するリスクがあること、感染しても地域のなかで暮らしを取り戻せることの大切さを伝え、感染者や医療従事者が、それぞれの暮らしの場所に受け入れられる環境をつくり、思いやりのある暮らしやすい社会を目指す活動です。

県内 金融機関初

タッチパネルへの 抗ウイルス・抗菌効果フィルムの導入

当行は、ご来店のお客さまに安心してご利用いただけるよう、当行のATMなどのタッチパネルに抗ウイルス・抗菌効果のあるフィルムを導入しました。対象機器は、当行の店内・店外ATM全台（コンビニATMを除く）、両替機、営業店受付発券機（EQシステム）で、貼付が完了した機器にはSIAAマークのステッカーを表示しています。

本機器は、タッチパネルに抗ウイルス・抗菌効果のあるフィルムを貼っています。

RIKEGUARD® JI-000001

SIAA
ISO 21702
抗ウイルス加工
JF0612310A0000R

SIAA
ISO 22196
抗菌加工
JF0122310A0000R

① 沖縄銀行

貼付が完了した機器に表示するSIAAマークのステッカー

導入した フィルムと その特徴

リケンテクノス製 リケガード

- 抗ウイルス・抗菌両方のSIAAマークを取得した世界初のフィルム
- 銅イオンの力で、フィルム上に付着したウイルスを99.9%減少

キャッシュレス決済をはじめよう！

キャッシュレス決済とは、現金(キャッシュ)を使わずに代金を支払う方法のことです。
クレジットカードや交通系ICカードなどのカード決済が代表的ですが、
近年は、二次元コードなどを利用したスマートフォンでの決済方法も広がっています。

キャッシュレス決済の メリット

現金を持ち歩く必要がなく、
素早く支払いができる

現金を下ろす手間が省ける

利用履歴が残るため、
家計管理がしやすい

ポイント還元や割引などの
キャンペーンを利用できる



キャッシュレス決済の種類と支払い方法

支払い方法	代表的な決済手段	支払いのタイミング	お金の流れ
前払い	プリペイドカード 電子マネー	商品やサービスの提供を受ける前	- プリペイドカードやスマートフォンに現金を入金する - 店舗で読み取りをして代金を支払う
同時払い	デビットカード	商品やサービスの提供と同時	- 銀行口座に現金を預ける - 店舗で読み取りをすると同時に代金が銀行口座から自動で引き落とされる
後払い	クレジットカード	商品やサービスの提供を受けた後	- カード会社が店舗に代金を支払う - 購入者がカード会社に代金を支払う

今、スマホ決済が注目されています！

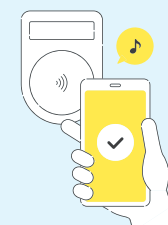
スマホ決済は、スマートフォンにインストールしたキャッシュレス決済専用のアプリを通じて支払いを行う決済方法です。アプリに銀行口座やクレジットカードなどの情報を登録するだけで利用できます。利便性が高く、店舗におけるサービス導入の負荷が少ないことから、「〇〇Pay」などの名前で普及が進んでいます。また、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、非接触での支払いや短時間での会計が可能になるといった、感染拡大防止の観点からも注目されています。

スマホ決済の種類と仕組み

非接触IC決済

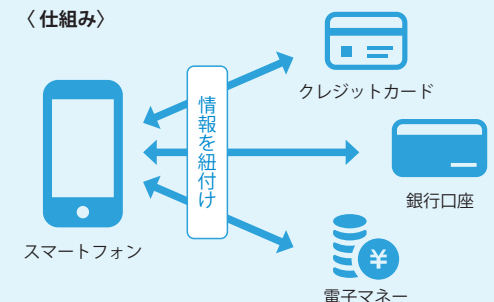
スマートフォンに搭載された近距離無線通信の機能を利用

〈支払い方法〉



店舗の端末にスマートフォンをかざし、無線通信で情報を読み取って支払う

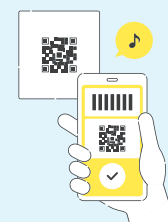
〈仕組み〉



二次元コード決済

スマートフォンにアプリをダウンロードし、二次元コードを利用

〈支払い方法〉

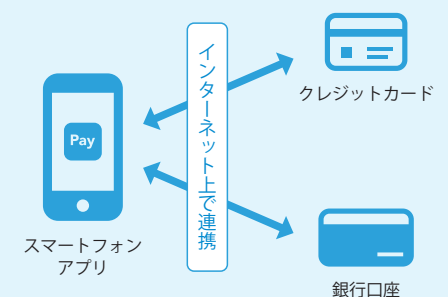


店舗が提示している二次元コードをスマートフォンで読み取って支払う



スマートフォンに表示した二次元コードを店舗の端末で読み取って支払う

〈仕組み〉



沖縄銀行は、二次元コード決済ができるスマホ決済サービス **OKI Pay** をご提供しています。

詳細は次のページをご覧ください。

キャッシュレス決済なら OKI Pay!!



「OKI Pay(おきペイ)」は、沖縄銀行に口座をお持ちの個人のお客さまが、スマートフォン1つで支払いできるキャッシュレス決済サービスです。スマートフォンに「OKI Pay」アプリをダウンロードし、口座情報の登録を行うことですぐに利用が可能です。2020年度は、「スマホ収納サービス」の機能を追加しました。当サービス対応の払込票に印字された二次元コードをスマートフォンで読み込むことにより、OKI Payで支払いができ、コンビニや銀行ATMなどに行く手間が省けます。ますます便利になるOKI Payを、ぜひご利用ください。

OKI Pay 8つの機能



Wallet+の
「myCoin」が貯まる



「銀行Pay」対応で
他県でも使える



口座即時引き落としで
使いすぎを防止できる



利用できる店舗を
アプリで検索できる



1日の利用上限額が
設定できる
(最大金額10万円、1円単位)



利用履歴の
確認ができる



スタンプを貯めて
限定クーポンが
もらえる



払込票を使って
公共料金や税金の
支払いができる

沖縄銀行は、キャッシュレス決済で 地域活性化に取り組みます

当行は、「新しい生活様式」に適応するキャッシュレス決済の普及により、お客さまの利便性向上と経済活性化に向けたさまざまな取り組みを行っています。OKI Pay導入店舗の増加、イベントやキャンペーンの開催など、キャッシュレス決済の推進を通して、県民の豊かな生活をサポートするとともに、新しい体験価値を創造していきます。



2020年度の主な取り組み

- 宮古島市と「キャッシュレス推進に関する連携協定」を締結
- 総務省「統一QR『JPQR』普及事業」に参加
- 「Go To Eatキャンペーンおきなわ共同事業体」に参加、電子食事券の発行を担当し、コロナ禍で大きな影響を受けた飲食店の利用を促進
- サンエー浦添西海岸パルコシティ、リウボウストアでOKI Payを導入
- 商工会連合会と連携し、「ありんくりん市」でOKI Payを導入、キャッシュレスの利便性を体験できるキャンペーンを実施

OKI Payのはじめかた



- 1 アプリをダウンロード
- 2 アプリ画面の案内に従ってOKI Payアカウントを登録
- 3 沖縄銀行の口座情報を登録
- 4 準備完了！今すぐ使えます！

アプリのダウンロードはこちらから



※上の二次元コードから、各ダウンロードサイトへ接続できます。

※沖縄銀行のYouTube公式チャンネルで、「OKI Pay」のご利用方法を動画で紹介しています。

デジタルを活用して金融サービスをもっと便利に 「おきぎんBig Advance」

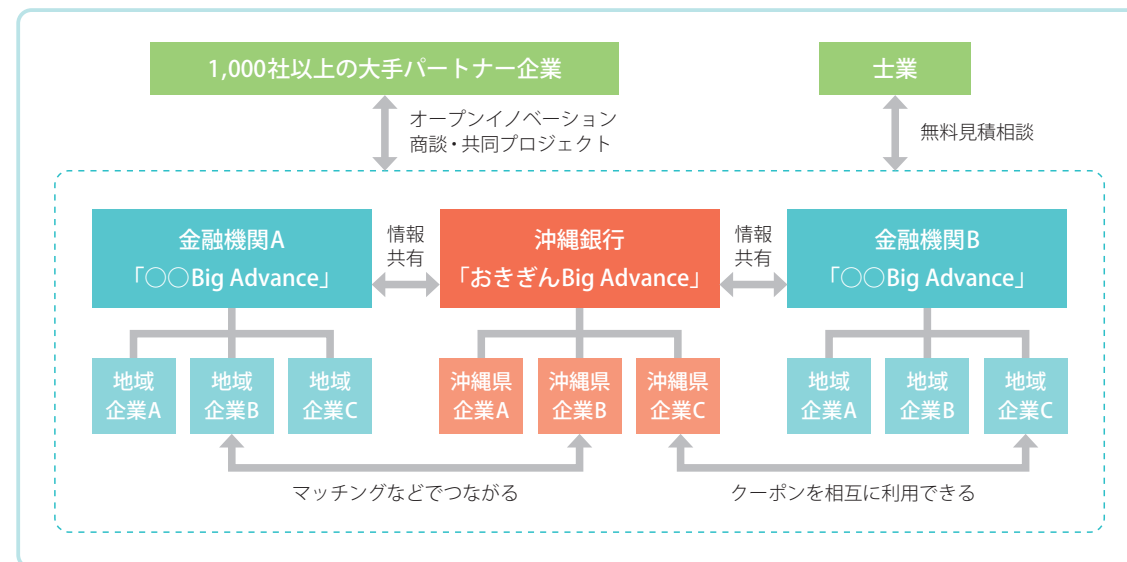
沖縄銀行は、地域経済の発展に寄与する金融サービスに新たな発想で取り組み、地域とともに新たな価値を創造する銀行を目指しています。ICT・デジタルチャネルを活用し、事業者さまが抱える経営課題の解決やDXなどの支援を通じて、企業価値の向上や地域社会全体の活性化に貢献するために、「おきぎんBig Advance」の提供を開始しました。



「Big Advance」とは？

「Big Advance」は、「金融サービス革命で地域を幸せに」をコンセプトに株式会社ココペリが開発した経営支援プラットフォームです。サービスを導入している金融機関同士が連携して地域企業を支援できる新たなプラットフォームとして、地域の活性化および産業振興への貢献が期待されています。

「Big Advance」の仕組み



中小企業のあらゆる課題解決を支援

「おきぎんBig Advance」

「おきぎんBig Advance」は、お客さまのDXや大手企業とのオープンイノベーションによる未来の新規事業創出を支援します。広域ビジネスマッチング、売上拡大支援、ホームページ制作、内部体制構築支援などのサービスを、初期費用なし、月額3,300円(税込)でご利用可能です。面談や商談は「おきぎんBig Advance」運営事務局の担当者が調整し、機会の設定につなげます。



スマートフォンでも
ご利用いただけます！



提供サービス



ビジネスマッチング
ビジネス、不動産、人材から事業承継までマッチング



福利厚生サービス
クーポンで従業員への福利厚生を提供



ホームページ機能
スマートフォン、SEO対応の会社ホームページを15分で作成



士業相談
オンライン士業相談サービスで経営課題を解決



オープンイノベーション
大手有名企業とのイノベーション企画に参加



チャット
支店の担当者、本部とのチャット

日本初！無料版を提供

おきぎんが提供するさまざまなサービスへの総合入口

「おきぎんBig Advance Basic」

「おきぎんBig Advance Basic」は、お客さまにもっと身近に、もっと便利に金融サービスを活用していただくために誕生しました。当行とお客さまとのコミュニケーションを深化するツールとして、支店担当者とのチャットができるだけでなく、セミナー情報や経営コラムといったさまざまな金融サービスへのアクセスが無料で可能となります。連携サービスは随時追加していく予定です。

提供サービス



チャット
支店の担当者、本部とのチャット



セミナー予約
金融機関が主催するセミナー情報の配信・予約



経営コラム
税務・財務・法務・労務・知財・経営の各分野の専門家コラムの配信

おきぎんの 業務革新の取組み

沖縄銀行は、事業者さまの業務効率化を支援するだけでなく、当行においてもDX推進を中心とした業務革新を行っています。お客さまの利便性を向上するとともに、事務作業時間の削減により創出した資産と時間をお客さまへのサービス提供や当行の人材育成に配分することを目指しています。



これまでの取組み

主な取組み

ペーパーレス

- 帳票印刷の見直し

オペレーションレス

- 業務プロセスの効率化支援システムツールの導入
- 各種システムの連携・統一化
- RPA活用によるルーティンワークの自動化

キャッシュレス

- スマートフォンアプリ「おきぎんSmart」開始
- スマホ決済サービス「OKI Pay」開始 など

テーマは
「3レス」!

検証結果

施策実施数

50 施策

効果検証済施策数

37 施策

オペレーション削減時間

約4万7千時間

オペレーション削減時間の
人件費換算

約7千4百万円

※2019年4月～2020年3月実績。期中から取組みを開始したものは、年度ベースに換算して集計。

すべての施策は、定量面（投資効果や開発費用、人件費など効果の数値化）、定性面（職員の声、要望など）の両面から検証を行い、既存業務の改善に活用しています。

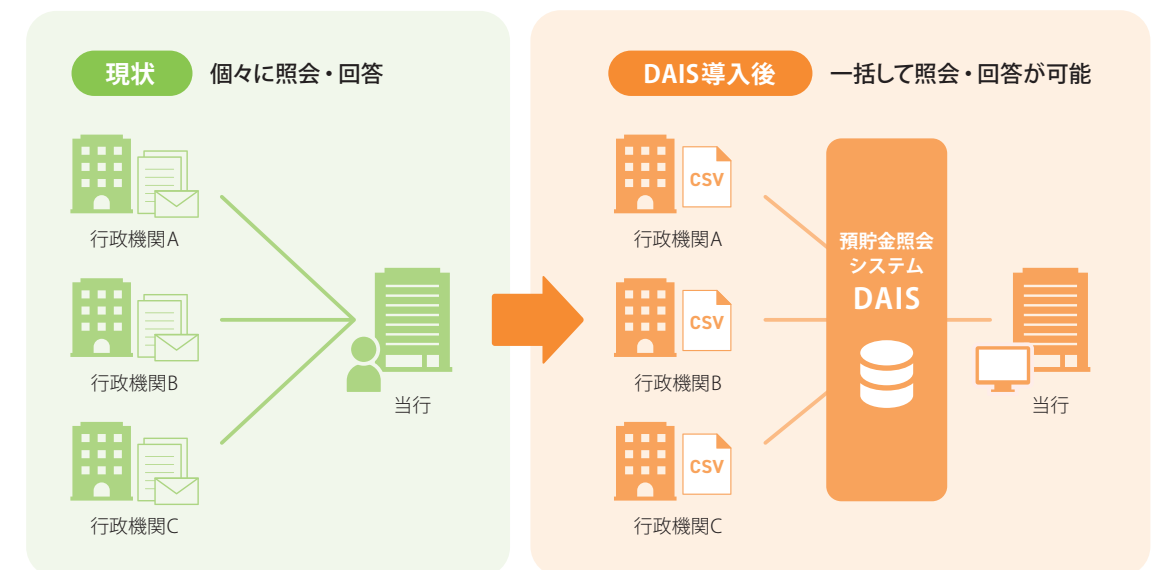
今後も取組みと検証を継続し、さらなる業務改革を推進していきます。

最新の取組み

CASE 1

預貯金照会システム「DAIS」を導入

当行は、行政機関および当行の業務効率化を図るため、日本ATM株式会社が提供する「預貯金照会システム（DAIS）」を導入しました。これにより、行政機関との間で行う預貯金の照会・回答業務を、受付から回答までデジタル化でき、調査に関わる業務の効率化・迅速化が可能となります。預貯金照会業務は、政府が推進している「デジタル・ガバメント実行計画」における「オンライン化等を実施する行政手続等」に含まれています。当行は、本システム導入により、行政機関の業務効率化を積極的に支援するとともに、当行における業務効率化を目指します。



CASE 2

外国送金の着金コンファメーションを自動化

当行は、SWIFT（国際銀行間通信協会）が提供するアプリケーションと国際勘定系システムを連携し、海外の送金先に対して着金連絡を自動化する仕組みを導入しました。SWIFT gpi[※]へ加盟し、連携システムを自動化したことで、送金を中継する金融機関での処理状況や、受取銀行の着金状況をスムーズに確認できるようになり、「手数料がいくらかかるかわからない」「いつ届くかわからない」といった銀行間の外国送金時の課題解決につなげます。当行は、ご利用しやすい海外送金サービスのご提供と機能の拡充に向けた取組みを継続していきます。

※SWIFT gpi (Society for Worldwide Interbank Financial Telecommunication Global Payments Innovation)。

国内
地銀初

おきぎんグループ×SDGs 持続可能な社会を 実現するために

SDGsは、2015年の国連サミットで採択されたSustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略称です。そして「持続可能な開発」とは、未来に生きる人々のための環境や資源を壊さずに、今を生きる人々の生活をよりよくする開発のこと。SDGsでは、2030年までに達成を目指す17の国際目標と、誰ひとり取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現が宣言されています。沖縄銀行は、SDGsの達成に向けた取組みを推進するとともに、県民への普及活動を行っており、「おきなわSDGsパートナー」として沖縄県に登録されています。

▶ SDGs17の目標

SDGsの17の国際目標は、「人間(People)」「豊かさ(Prosperity)」「地球(Planet)」「平和(Peace)」「パートナーシップ(Partnership)」の5つのPに分類して考えることができます。

人間(People)

- | | |
|---|--|
| 1 貧困をなくそう
あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる | 4 質の高い教育をみんなに
すべての人々へ包摂的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する |
| 2 飢餓をゼロに
飢餓を終わらせ、食料安全保障および栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する | 5 ジェンダー平等を実現しよう
ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女児の能力強化を行う |
| 3 すべての人に健康と福祉を
あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する | 6 安全な水とトイレを世界中に
すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する |

豊かさ(Prosperity)

- | | |
|--|---|
| 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
すべての人々に、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する | 10 人や国の不平等をなくそう
各国内および各国間の不平等を是正する |
| 8 働きがいも経済成長も
持続可能な経済成長および生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する | 11 住み続けられるまちづくりを
包摂的で安全かつ強靱で持続可能な都市および人間居住を実現する |
| 9 産業と技術革新の基盤をつくろう
強靱なインフラ構築と持続可能な産業化の促進およびイノベーションの推進を図る | |

地球(Planet)

- | | |
|---|--|
| 12 つくる責任つかう責任
持続可能な生産消費形態を確保する | 14 海の豊かさを守ろう
持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する |
| 13 気候変動に具体的な対策を
気候変動およびその影響を軽減するための緊急対策を講じる | 15 陸の豊かさを守ろう
陸域生態系や森林を守り、砂漠化や土地の劣化、生物多様性の損失を阻止する |

平和(Peace)

- | |
|--|
| 16 平和と公正をすべての人に
持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、効果的な制度を構築する |
|--|

パートナーシップ(Partnership)

- | |
|---|
| 17 パートナーシップで目標を達成しよう
持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化 |
|---|



おきぎんグループ SDGs宣言



総合金融サービスグループのおきぎんグループは経営理念である『地域密着・地域貢献』を実践することで、国連が提唱するSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献し、地域社会、全てのステークホルダーと持続的な未来を創造し、持続可能な社会の実現を目指してまいります。

株式会社 沖縄銀行 頭取 山城 正保

重点的な取組み

テーマ	取組み内容	SDGs目標
地域経済との共創 関連ページ P23	● 地域経済の持続的な発展には、地域における事業者の皆さまの事業の継続性が重要であるとの認識のもと、事業者の課題解決を図るとともに、生産性向上を図り、持続的な社会の実現を目指してまいります。 ● 地域経済の持続的な発展には、お客さまの良質な資産形成が必要との認識のもと、お客さまの金融リテラシーの向上を図ることで持続的な社会の実現を目指してまいります。	
地域社会との共創 関連ページ P24~	● 健康応援バンクとして、地域社会が健康になることで、地域社会との共創を図ってまいります。 ● 次世代の地域社会を担う子供たちの活力ある未来の実現にむけ、金融教育、地域活動を通じて、地域社会との共創を図ってまいります。 ● 地域社会の文化の発展に貢献することで、地域社会との共創を図ってまいります。	
地球環境との共創 関連ページ P26	● 環境に優しい地域社会作りに貢献することで、地球環境との共創を図ってまいります。 ● 環境に優しい経営を行うことで、地域のお客さまのワンダフルライフを実現し、地域環境との共創を図ってまいります。	
ダイバーシティとの共創 関連ページ 裏表紙	● 人権や多様性を尊重し、全ての人が仕事も生活も充実させ自分らしく活躍できる、共創できる社会づくりに貢献してまいります。 ● 地域経済、地域社会、地球環境と共創する能力が発揮できる、生きがい、働きがいのある職場を作り、ダイバーシティとの共創を図ってまいります。	

地域経済との共創

地域事業者の課題解決に向けた取組み事例

県内観光事業の課題解決を支援

おきぎん美ら島商談会(観光篇)

当行は、県内観光事業者の課題解決を行うため、三菱 UFJ 銀行、中小企業基盤整備機構沖縄事務所と連携し、「おきぎん美ら島商談会(観光篇)」を開催しています。2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で売上減少に苦慮している県内観光事業者とソリューション提供事業者の商談機会を提供しました。また、新しい働き方「ワーケーション」について、取組み事例を中心に情報発信をしました。今後も地元根ざす地域金融機関として、地域経済の活性化へ貢献していきます。

支援継続
年数

4年

累計
商談数

628件



※新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮し、初のオンライン開催。

業界・業種横断のイノベーションを目指して

X-Tech Innovation 2020

X-Tech Innovation(クロステックイノベーション)は、金融領域にとどまらない、各業界・業種を横断するデジタルを活用した新しいサービスを募集し、企業同士のマッチングの機会を提供するビジネスコンテストです。2020年度は、当行、北海道銀行、岩手銀行、七十七銀行、ふくおかフィナンシャルグループが共同で主催し、「ポストコロナ時代の“New Normal(新常态)”」をテーマに掲げ、コロナ後の世界で生じるさまざまな課題やニーズに対してデジタルで社会変革を促進するサービス・ビジネスのアイデアを募集。沖縄地区選考会で最優秀賞を受賞した株式会社Alpaca.Labが、全国4地区の代表が集まるグランプリファイナルでオーディエンス賞を受賞しました。今後も、日本を横断する地域共創型イベントであるX-Tech Innovationを通じて、既存の枠組みを超えた新しいネットワークの構築とオープンイノベーションの実現を目指していきます。

支援継続
(4回開催)

4年

沖縄地区累計
参加企業数

41社

グランプリファイナル オーディエンス賞

— 沖縄地区最優秀賞 —

企業名



サービス名



※AIRCLE(エアクル)

ソリューション

運転代行に特化した配車アプリです。利用者が迎車位置と目的地を入力して配車依頼をすると、最も近くにいる運転代行業者に通知が届く仕組みで、業者の到着時間を短縮。アナログ管理で非効率な運転代行業界の課題を解決します。

地域社会との共創

次世代を担う子どもたちに向けた教育の取り組み事例

— SDGsの目標 —



司法試験の合格を支援

リーガル・アシスタント制度

支援継続
年数

13年

累計
合格者数

16名

沖縄銀行は、司法試験挑戦中の琉球大学法科大学院の修了生を嘱託職員として採用し、受験勉強を支援する制度である「リーガル・アシスタント制度」を設けています。2020年度、当支援制度の利用者1名が司法試験に合格しました。今後も同制度を継続し、地域に貢献する法律家を目指す司法試験受験生を応援していきます。

合格者談

知識を学ぶだけでなく、 現場で活かす方法も学ぶことができました

2019年からリーガル・アシスタントとして採用していただき、沖縄銀行の皆さまのご支援を受け、合格することができました。司法試験の受験には多くの出費が伴いますが、この制度による経済的支援のおかげで勉強を継続できました。また、今回は新型コロナウイルス感染症の影響で司法試験が延期され、不安が襲う中での受験となりましたが、制度の契約期間を延長していただいたことが経済面・精神面ともに大きな支えとなりました。司法試験後は、リスク管理部法務グループにて銀行法務をお手伝いし、法律知識を現場で活かす方法を学ぶとともに、法務相談に対する回答の難しさとやりがいを感じました。この経験を活かし、地元沖縄に貢献できるよう、これからも日々精進していきたいと思います。



2020年度 合格
伊集 朝也さん

高校生の金融知力を養成 エコノミクス甲子園

支援継続
年数

14年

県内累計
参加者数

1,098名

当行は、子どもたちへの金融教育活動の一環として、「エコノミクス甲子園」を開催しています。本大会は、高校生が楽しみながら金融経済を学び、金融知力を身に付けることを目的としており、時事問題や豆知識など、幅広くお金に関する知識を問うことで、お金との関わり方を考えるきっかけをつくります。2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からインターネット上で開催しました。今後も、本大会を通じて金融経済教育の普及に努めていきます。



地域社会との共創

文化や社会福祉の発展への貢献に向けた取り組み事例

— SDGsの目標 —



沖縄の振興を支援

おきぎんふるさと振興基金

支援継続
年数

31年

累計
支援先数

285先

(公財)おきぎんふるさと振興基金は、健康・環境・教育・福祉・文化などさまざまな分野において、沖縄の振興に貢献する方々を支援する目的で設立され、将来性があると判断される個人・団体・企業などに対して助成を行っています。2021年度は、6先に計500万円を助成しました。現在放送中のテレビ番組「17のたね〜沖縄のみらいを元気に!!〜」では、助成先を紹介しています。

助成先や事業報告書は沖縄銀行Webサイトににてご覧いただけます。

📄 <https://www.okinawa-bank.co.jp/opf/>



「地域が地域を支える」社会づくりを支援 こども食堂への食品寄贈

当行は、こども食堂への支援に賛同いただいた当行取引先企業12社と協力して、「浦添市こども未来部」へ食品を寄贈し、浦添市内のこども食堂16カ所への配布を実現しました。今後も、お客さまとこども食堂をつなぎ、「地域が地域を支える」誰ひとり取り残さない住み続けられる社会づくりの実現と、子どもの貧困問題解決に向けて取り組んでいきます。



内閣府特命担当大臣より表彰されました！

当行は、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部が選定する令和2年度「地方創生に資する金融機関等の『特徴的な取組事例』」として、内閣府特命担当大臣(地方創生担当)より表彰を受けました。今回の表彰では、那覇市内でこども食堂を運営する「NPO法人にじのはしファンド」と連携した活動資金の募集協力や、スマートフォンアプリ「おきぎんSmart」の募金機能を介した新たな資金調達手段の提供などをはじめとした39事例が選定されました。今後も、助け合い・支え合う社会づくりへの貢献と持続可能な社会の実現に努めていきます。

地球環境との共創

環境に優しい地域社会づくりへの貢献に向けた取り組み事例



美ら海を次世代へつなぐ クリーンビーチ活動

活動回数 **2回** 累計参加者数 **1,212名** ゴミ袋総数 **453袋**

沖縄銀行は、おきぎんグループSDGs宣言に基づく活動の一環として、おきぎんグループの新入行員・新入社員の企画・運営のもと、「第2回おきぎんグループクリーンビーチ活動」を実施しました。2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮し人数制限を設け、全体で316名が参加、県内離島を含む6カ所のビーチで一斉にゴミを拾いました。おきぎんグループは、当活動を通じて海ゴミ問題など自然環境保護の意識を高めるとともに、持続可能な社会の実現へ向けた活動を継続していきます。



活動場所



- | | |
|--------|-------------------|
| ① 名護市 | 21世紀の森海岸 |
| ② うるま市 | 海中道路海岸 |
| ③ 西原町 | 西原マリパーク近辺 |
| ④ 宜野湾市 | 宜野湾マリーナ～宜野湾海浜公園 |
| ⑤ 宮古島市 | バイナガマビーチ (宮古島市平良) |
| ⑥ 石垣市 | 多田浜海岸 |

再生可能エネルギーの普及に向けて

太陽光発電設備運営プロジェクトへの融資

当行は、Oita Solar合同会社の運営する、大分県における大規模太陽光発電設備運営プロジェクトのシンジケートローンに融資しました。地球温暖化をはじめとした環境問題が深刻化し、世界的にESG※に対する取り組みが拡大する中、当行も本プロジェクトへの協力を通じて太陽光発電の運営を支援するとともに、今後の県内における再生可能エネルギー整備事業の支援につなげていきます。



※ESG：環境(Environment) 社会(Social)、ガバナンス(Governance)の頭文字をとった用語で、これらの要素を考慮することが、持続可能な社会の実現と長期的な企業価値向上につながるという考え方のこと。

沖縄銀行創立65周年によせて



沖縄銀行 本店（那覇市久茂地）

おかげさまで 創立65周年。 これからも、沖縄の未来を元気にするために

沖縄銀行は、本年7月、創立65周年を迎えることができました。今、社会は、新型コロナウイルス感染症の拡大や超高齢社会の進展、環境問題の深刻化など、多くの問題を抱えています。そのような中、当行は、持続可能な社会を実現し、沖縄の未来を元気にするために、SDGsをはじめとしたさまざまな取り組みを行っています。これからも、経営理念である「地域密着・地域貢献」を実践し、地域に愛されるピープルズバンクとして、皆さまとともに歩んでいきます。

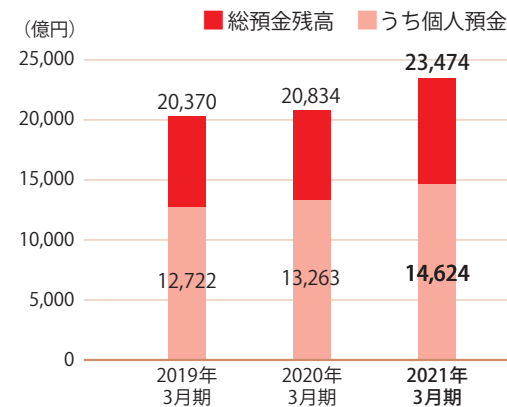


放送日時 毎週火曜日 午後6時55分
(再放送) 毎週火曜日 深夜0時45分
放送局 琉球朝日放送 (QAB)

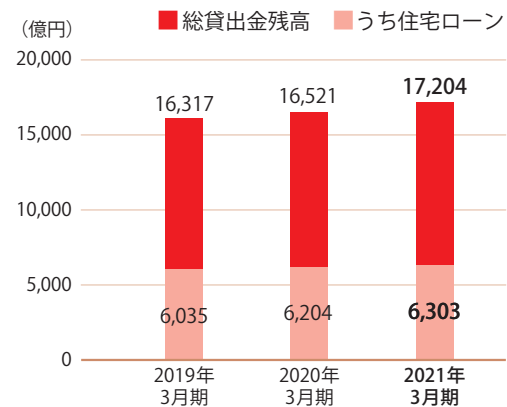
当行は、2021年5月より、テレビ番組「17のたね～沖縄の未来を元気に!!～」を放送しています。本番組では、当行取引先を中心に、「産業振興」「学術研究」「子どもの貧困対策」など、SDGs17の目標達成に取り組んでいる個人・団体・事業者さまを紹介しています。地域社会に温かい和を広げ、誰ひとり取り残さない持続可能な社会を実現し、その機運を後押しする番組を目指していきます。

2021年3月期 業績ハイライト(単体)

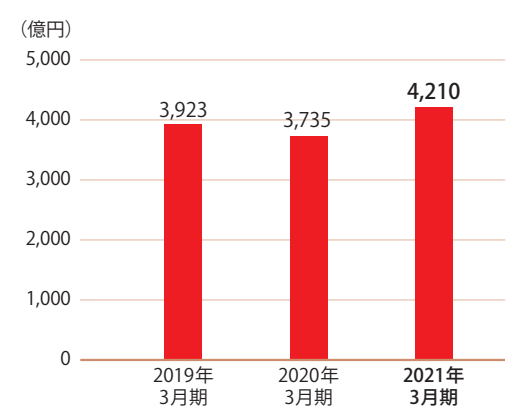
預金



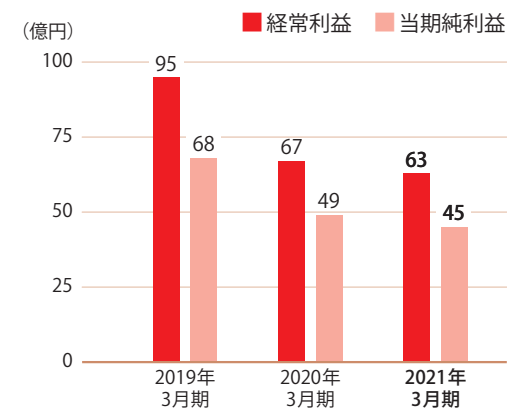
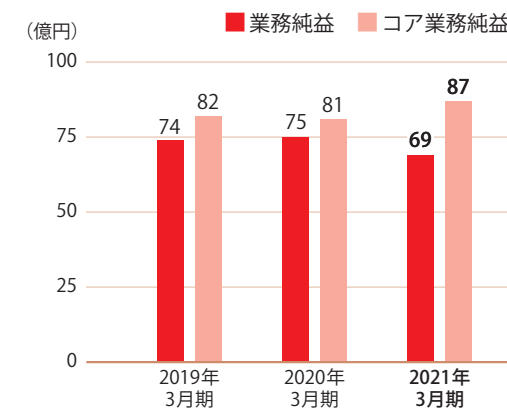
貸出金



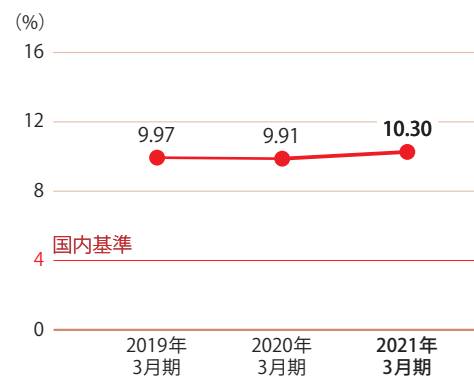
有価証券残高



損益の状況



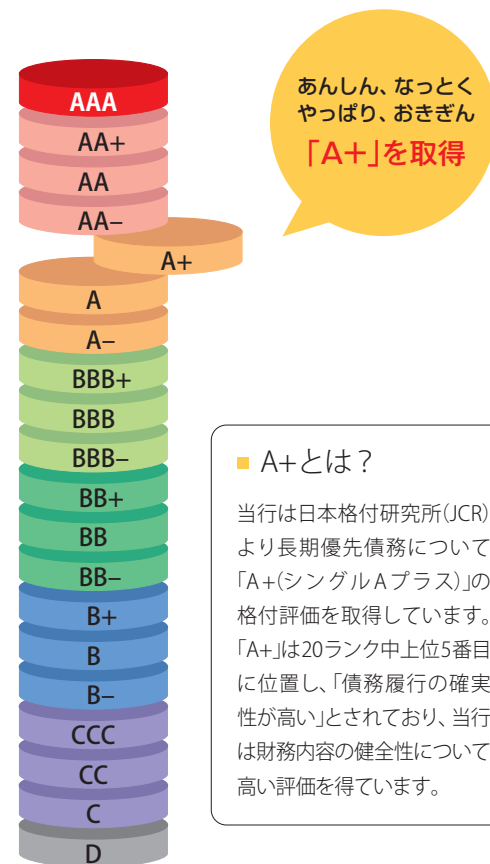
自己資本比率



■ 自己資本比率とは？

総資産に占める自己資本の割合で、銀行の健全性を示す重要な指標の一つであり、比率が高いほど安定した経営といえます。なお、海外に営業拠点を持つ銀行は8%以上(国際基準)、当行のように海外に営業拠点を持たない銀行は4%以上(国内基準)であることが求められています。

銀行の財務内容の健全性を評価する「格付」



銀行の概要

(2021年3月31日現在)

商号	株式会社 沖縄銀行
設立	1956年6月21日
創業	1956年7月10日
本店所在地	沖縄県那覇市久茂地3丁目10番1号
総資産	2兆6,453億円
預金残高	2兆3,474億円
貸出金残高	1兆7,204億円
資本金	227億25百万円
自己資本比率	10.30%
従業員数	1,167名
店舗数	65店舗

おきぎんグループ

- 総合リース業務
株式会社 おきぎんリース
- クレジットカード業務
株式会社 おきぎんジェーシービー
- 証券業務
おきぎん証券 株式会社
- コンピュータ関連業務
株式会社 おきぎんエス・ピー・オー
- 保証業務
おきぎん保証 株式会社
- 代行業務
おきぎんビジネスサービス 株式会社
- 債権管理回収業務
美ら島債権回収 株式会社
- 金融・経済の調査研究業務、経営相談業務、その他
株式会社 おきぎん経済研究所
- 販路開拓支援事業、コンサルティング事業
株式会社 みらいおきなわ

外部からの評価・認証

沖縄銀行は、職員の健康維持や働きがいのある職場づくり、健全な経営体制の向上に努めており、その取組みは外部からも評価されています。

— SDGsの目標 —



4年連続!

健康経営優良法人認定制度

当行は、「健康応援バンク」宣言を行っており、「健康づくりは人材づくり」という位置付けのもと、「ALL-KOB(全員が健康応援バンカー)」プランを策定しています。おきぎんグループ全役職員の健康に対する意識を高め、自身と家族、職場、お客さまや地域の皆さま全体の健康増進に努めています。健康経営を通して、職員のさらなるライフスタイル改善の支援、働きやすい職場環境の構築、SDGsの目標達成への貢献を目指します。



九州・沖縄の銀行初!

内部通報制度認証(自己適合宣言登録制度)



当行は、コンプライアンスを経営の最重要課題と位置付け、内部通報制度の充実を図っています。内部・外部に複数の受付窓口を設置する、退職者の通報も可能にする、通報者に対する不利益処分や通報内容の口外を懲戒処分の対象にするなどの体制を整備しています。お客さまからの信頼に応えられるよう、強固なコンプライアンス体制の維持に全力で取り組んでいきます。

初認証!

沖縄県人材育成企業認証制度

当行は、職員ひとりひとりのスキルアップと自律的なキャリア形成のための人材育成および支援を行うことで、職員がお客さまの喜びに働きがいを見出し、いきいきと活躍できる職場環境の実現を目指し、さまざまな取組みを推進しています。当行における採用・育成・評価などの人材に関する取組みは、「沖縄県人材育成企業認証制度」が定める「働きがい15項目」の認証基準を満たしています。



県内金融機関初!

「えるぼし」認定制度

当行は、女性職員を含む多様な人材が活躍できる組織に向けて、さまざまな取組みを行っています。今後は、2024年までに管理職に占める女性の割合を30%以上に拡大することを目指し、キャリア研修の継続実施を行うとともに、管理職に対して労働基準法・男女雇用機会均等法・ハラスメント防止法などの講義を実施することで、女性活躍に関する意識の醸成を図るなど、さらに取組みを推進していきます。

